



# 地域主体の防災活動から地域・学校・家庭 が連携協働した防災活動へ

群馬県館林市大島地区防災会

## 1 はじめに

館林市は群馬県の南東部に位置し、関東平野のほぼ中央にあります。北に渡良瀬川、南に明和町を挟んで利根川が東流し、両河川は本市の南東約16kmの地点で合流しています。

大島地区は館林市の北東部に位置しており、北を流れる渡良瀬川に沿って集落が存在しています。標高は14～19mと比較的低い位置にあり、「館林市ハザードブック」によると、利根川か渡良瀬川のどちらかが氾濫すると、地区内全域が浸水するおそれのある地域となっています。

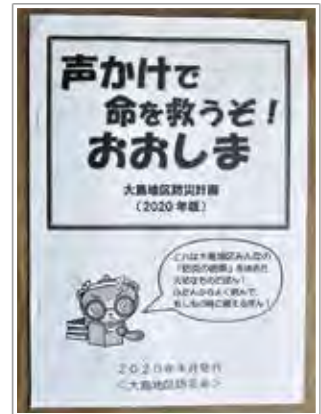
地区内人口は約2,000人、世帯数は約800世帯で、水田を中心とした農地に集落が点在する地域と、県が分譲してできた新興住宅団地が混住する地域となっており、少子高齢化の傾向が顕著な地域でもあります。

## 2 大島地区防災会のあゆみ

大島地区では、水害や地震に備えた自主的な防災活動や、災害による被害の防止・軽減を図るため、平成10年9月に「大島地区防災会」が設立されました。

平成20年より、地域住民を主体とした「防災訓練」と、震度6強の地震を想定した「防災連絡網訓練」を毎年11月に実施してきましたが、少子高齢化や生活様式の多様化等に伴い、若い世代や子供たちの参加が年々減少していくことが課題でした。そこで、地区内にある第四小学校が、平成30年度に市内初の「コミュニティスクール」に指定され、より地域と学校が連携協働し

た学校教育を推進することになったのをきっかけに、防災訓練当日を第四小学校の「学校公開日」に充て、児童や保護者、地区住民も一緒に防災訓練に参加していただき、地域社会が一体となった防災訓練・防災活動に取り組んできました。



大島地区防災計画

令和元年度には、「声かけて 命を救うぞ! おおしま」を合言葉にした「大島地区防災計画」を作成し、全戸に配布しました。

令和2年度には、前年の10月に発生した「令和元年東日本台風」の大雨の影響で、渡良瀬川を挟んで隣接する栃木県佐野市の河川が、堤防の決壊や氾濫したことを受け、大島地区では、災害時に身を守る行動が困難な方の「お助け名簿」を作成し、名簿登録者等にいち早く災害時の避難情報等の声掛けを行い、一人でも多くの人の命が守れるような仕組みづくりを構築しました。また、防災連絡網が機能するかどうかを検証するため、11月に行っている震度6強の地震を想定した連絡網訓練と、台風シーズン前の6月にも、「警戒レベル3高齢者等避難の発令」を想定した連絡網訓練を行い、毎年2回「防災連絡網訓練」を実施することになりました。



避難所に指定されている第四小学校の体育館で避難所開設訓練



第四小学校校庭に設置されている防災倉庫の確認点検



児童と住民が防災について共に学び共に体験する防災ワークショップ



読み聞かせボランティアによる防災紙芝居と防災クイズ

令和3年度からは、地区内に居住する消防職員OBや防災士、アマチュア無線技士等を「大島地区防災会」の委員に加え、防災組織の強化を図ってきました。

### 3 大島地区防災訓練の概要

「大島地区防災会」主催の防災訓練当日を第四小学校の「学校公開日」とし、児童や保護者、地区住民が防災訓練と一緒に参加をして、地域社会が一体となった防災活動に取り組んでいます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、訓練の規模や参加人員を縮小しましたが、避難所に指定されている第四小学校で、コロナ禍における避難所開設訓練や防災倉庫の点検確認、防災ワークショップ等を行いました。

令和3年度もコロナ禍の中で、起震車に

よる地震体験や、ゴミ袋を利用した簡易水の作り、災害用トイレの設置、防災ワークショップ等を行い、防災意識の高揚と地域・学校・家庭の連携を図りました。

### 4 おわりに

防災訓練当日を学校公開日とすることにより、児童や保護者、地区住民が防災訓練と一緒に参加する等、地域全体を取り込むことで、地域コミュニティの育成と防災意識の高揚が図られました。また、地域力を生かした特色ある学校運営を行うことによって、学校を核とした地域づくりの推進にもつながっていくものと確信しています。これからのことが評価され、総務省消防庁主催の「第26回（令和3年度）防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会長賞」を受賞しました。